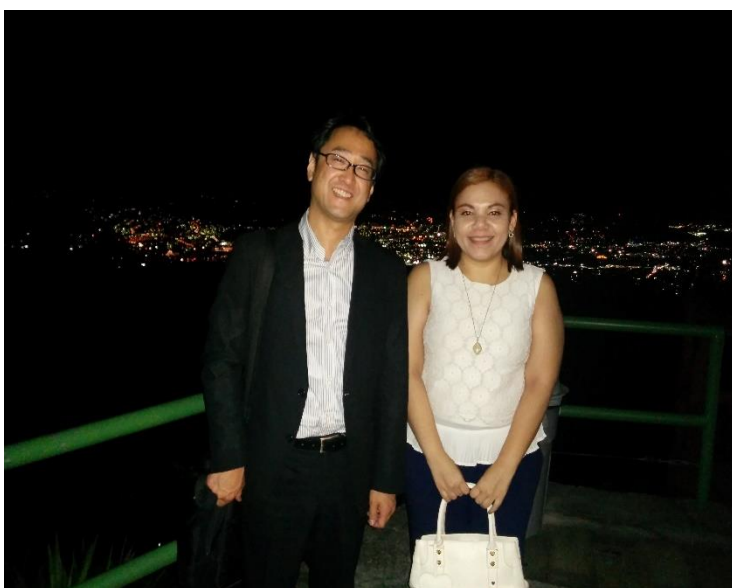


エルサルバドルを訪れて

みなさん、こんにちは。

私は 2014 年 5 月から 2017 年 5 月までの 3 年間、メキシコの国際交流基金メキシコ日本文化センターで、日本語アドバイザーという仕事をしていました。日本語教育の発展のために、主に教師対象のセミナーをしたり、日本語教育関係のイベントを企画したり、情報収集や広報などをしたりする仕事です。メキシコだけではなく、中米カリブ諸国も管轄に入っており、出張をしたり、遠隔でのサポートをしたりします。



お世話になったアントニア先生と

エルサルバドルは中米の中でもっとも面積が小さい国です。しかし、その小国が日本語教育においては重要な位置を占めているのです。中米の国の多くはそうなのですが、エルサルバドルも日本人教師がほとんどおらず、長い間少数の JICA ボランティアが国で唯一のネイティブ日本語教師でした。治安悪化の影響などで JICA の派遣も難しくなり、しばらくはネイティブ日本語教師不在が続いていると聞いています。

日本企業も少ないため、実際に日本語を

使う機会もほとんどない中、高等教育機関を中心に約 300 名もの人(当時)が日本語を学習していることには驚かされます。

年に一回行われる中米カリブ日本語教育セミナーなどで、エルサルバドルの日本語の先生には定期的に行ってきましたが、私が初めて同国を訪れたのは 2016 年 10 月のことでした。同年、エルサルバドル日本語教師会が発足するなど、現地の日本語の先生の頑張りが形となって実を結び始めているのがよくわかる時期でした。

エルサルバドルの出張では、中米大学及び国立エルサルバドル大学にて授業見学や教師対象の



弁論大会の客席



楽しそうな授業風景

セミナーを実施したり、大使館、JICA を訪問し、日本語教育事情の聞き取りや話し合いなどをしました。また、日本語弁論大会にも参加することができ、現地の学習者の日頃の学習の成果の発表に立ち合えたのもいい思い出です。

メキシコやコスタリカでのセミナーで現地の先生には何回かお会いしており、その熱心な姿勢にはいつも心打たれていましたが、やはりホームだと更にいきいきしており、楽しい授業を見せてくれました。また、学習者とも信頼関係ができていく様子うかがえました。

空き時間には、世界遺産の Joya de Cerén (ホヤ・デ・セレン) という遺跡やコロニアルな田舎町 Suchitoto (スチトト) などに私を案内してくれました。先生の現地の友人も加わり、楽しい時間を過ごすことができました。こうやって現地の人と触れ合い、現地の建築や文化を知ることができることも、出張の醍醐味です。

また、ププサを始め、現地の様々な食事を食べるのも楽しい経験でした。肉や貝も美味しかったです。もっ



スチトト



Huevo de Toro

とも印象に残っているのが Huevos de toro。直訳すると牡牛の玉子です。???ってなりますが、想像におまかせします……ちなみに、セヴィーチェのように半生でいただきました。結構美味しかったです。現地の先生方はそんなもの食べたことがない、と言っていました……

エルサルバドルは 2018 年 7 月に、中米ではコスタリカに次ぐ 2 か国目の日本語能力試験実施国になりました

た。私がメキシコにいたときも同件については、幾度も相談を受けており、関係者のご尽力で実施に至ったこと、本当に嬉しく思います。

今後とも中米の日本語教育の中心の一つとしてエルサルバドルの重要さは増していくと思います。

エルサルバドルにまた訪れるときを楽しみにしています！！

蟻末 淳(ありすえ じゅん)氏

2014年5月より2017年5月まで独立行政法人国際交流基金メキシコ日本文化センターの日本語アドバイザーとして、メキシコ及びエルサルバドルを含む中米カリブ地域の日本語教育の調査、セミナー等による日本語教師の支援などを行う。

その後、2017年6月から現在まで、同じく国際交流基金ニューデリー日本文化センターの日本語アドバイザーとして、南インドのチェンナイに駐在し、インド及び南アジアの日本語教育に携わっている。